

義人・村上久米太郎

会員の渡辺伸吾さん（今治市吉海町）が、自衛隊 OB の機関誌「隊友」に掲載されたご自身の投稿「義人・村上久米太郎の銅像をたずねて」を送って下さいました。警察の大不祥事が問題になっている今、ネットで熱い話題になっています。



陽光うららかな小春日和、来島海峡の大島沖に浮かぶ吉海町津島に「日本人此処にあり」で有名な村上久米次郎の銅像と碑を今治市在住の重松恵三閣下（元陸将、西部・東部方面総監歴任）ご夫妻と能島水軍の根拠地である宮窪町の元町長菅原恒夫氏と一緒に訪ねました。

津島で生まれた村上久米太郎は、映画にもなりましたし、「義人・村上久米太郎」の歌（編集部注・後述）は広く歌われました。

時は昭和 9 年 8 月 30 日、満州ハルピン発新京（現長春）行、夜行列車が突然匪賊に襲撃され、列車は脱線転覆し多数の死傷者が出ます。匪賊はめぼしい物品を略奪し、人質として日本人 7 人・外国人 2 人を拉致して姿を消します。軍及び警察は全力を挙げ捜索しますが、3 日目になっても発見できません。人質は常に銃を突きつけられていたので捜索隊が近くに来ても声が出せず、脱出を企てて失敗する度に暴行を受け、食事もろくに与えられず、服は破れ、不眠不休の彷徨 3 昼夜、もう体力の限界にきていました。

人質の 1 人、村上久米太郎は 18 年の軍隊生活中、剛毅果断で知られ、当時 48 歳、満州国吉林省事務官を務めていました。絶望が全員の気力・体力を奪う中、彼だけは諦めていませんでした。ふとエンジンの軽快な響きが聞こえます。賊は銃を突きつけ、声を出すと殺すぞと脅します。その時、村上久米太郎は覚悟を決めました。叫べば撃たれるが、もし声が届かなくても銃声は聞こえる。自分を撃たせれば皆は救われるかもしれない。彼は下腹に力を入れ、銃を突き付けていた賊を体当たりで転がし、すっと立つなり「日本人はここに居るぞ」と絶叫しました。次の瞬間、賊の拳銃が火を噴き、彼の顎を砕き、第 2 弾が右手首をえぐります。血の溢れる口を押さえながら倒れた彼には見えませんでした。通り

過ぎようとしていた艇は叫び声と銃声を聞いて直ぐに向きを変えます。駐満海軍部の警備艇です。陸戦装備の水兵たちが上陸して身構えるのを見て賊はあわてて逃げました。

幸いにも村上は一命をとりとめました。彼の勇敢な行為によって人質全員が救われたニュースは全世界を駆け巡り、アメリカ総領事、デンマーク総領事が病床の彼を見舞い、賞賛激励の言葉を述べます。

人質の中のアメリカ人は犠牲を厭わない勇氣と決断に「日本人でなければできない」と褒め讃えました。このアメリカ人の1人はメトロ・ゴールドウィン・メイヤー社の社員でした。社長のアーサー・ローエルは当時の広田外務大臣に丁重な謝辞を寄せます。「斯くのごとき偉人は日本人にして初めて見られること」と。この行為は天聴に達し、破格にも紅綬褒章を下賜されました。彼は当時、予備役陸軍歩兵曹長でしたが傷が癒えると、この年の11月、陸軍歩兵少尉に昇進します。その後、支那事変に従軍、大東亜戦争前に歩兵大尉に昇進し従軍した後、昭和33年、松山で波乱の生涯を閉じます。

没後7回忌を記念して顕彰保存会により昭和39年に銅像が建立されました。時の県知事・久松定武氏の揮毫によるもので、棧橋から直ぐの集会所横に建っており、偉業を讃えています。私たち4人は銅像に拝礼した後、彼が1期生として卒業された津島小学校跡地を訪れ、津島を後にしました。

♪♪「義人村上～日本人は此処に在り～」♪♪♪

(昭和9年 流行歌)

- | | | | |
|----|--|----|---|
| 1. | 何処へ曳かるる人質ぞ
首や双手は縄からげ
二日二夜も休みなく
明けりゃジャンクの船の底 | 4. | 丈夫 村上久米太郎
匪賊蹴破り躍りいで
満腔義烈の声こめて
「日本人はここにゐる！」 |
| 2. | 救援隊の呼ぶ声に
慌てふためく匪賊共
口に銃口つきつけて
撃つぞ叫ぶな声立つな | 5. | 叫ぶないなや弾丸は
顎を貫き犠牲に
君を倒せどその声に
内外人は救われぬ |
| 3. | それ、皇軍の短艇が行く
呼べば撃たれん叫ばずは
天に口無し すはや今
齒を噛みならず一刹那 | 6. | 君傷つきぬされど今
義烈輝く日本の
精神ならで誰が呼ぶ
この一ト声を誰が呼ぶ |

『忘れ得ぬ義人村上氏の印象』

クリスチャン・サイエンス・モニター紙編輯長

大阪毎日新聞 1934.11.6 - 1934.11.8 (昭和9年)

満州で私が最も感動を受けた経験はその勇敢な犠牲的行動によって匪賊の手から七名の日本人と二名の米国人を救ったかの村上久米太郎氏に面会することができたことであった。二、三の同行者と共に私は村上氏がいよいよ退院して新京の家族の元へ帰った日、氏に面会することができた。氏の謙虚な口からあの残虐な事件の説明を聞いたのだが、控え目な言葉にも拘わらず話は極めて壮烈なもので、われわれはこの一人の英雄の前に座していることを意識していながら何だかそういう英雄的行為とは別な日本人の偉大さを物語られているような気がしてならなかった。氏は満州国皇帝から名誉ある勲章を授けられた。身体の不自由なものにも拘わらず迎えてくれた氏をわれわれは永久に忘れることはないであろう。

行 事 の ご 案 内

菅 源三郎船長 慰霊顕彰 式典

日時：平成27年10月24日(土)

受付：10時30分 開式：11時

会場：菊間・巖島神社 菅 源三郎船長銅像前

JR 菊間駅裏「かわら館」から左へ150m

主催：郷党の偉人を讃える会

会長 小田道人司(渦潮電機株式会社会長)

副会長 重松恵三(愛媛偕行石鉄会会長)

同じ思いの同志相集い、郷党の偉人の功績を語り継ぎ、次なる世代にこの土地が育んだ人の偉大なるを伝え、それが郷土を愛することに繋がればとの思いを込めて、郷党の偉人を顕彰し語り継ぐ会を結成する運びとなりました。第1回は菊間に生を享け、日本海員道の鑑と謳われた、菅 源三郎船長の慰霊顕彰の式典を催します。

皆様！挙ってご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

(設立趣意書より抜粋)

元日本会議愛媛県本部会長の故久松定成先生のご学友に宇井豊先生がおられました。毎年、久松先生のご命日に川崎市からご来松。菩提寺の大林寺でお墓参りをされたあと久松邸にお寄りになっておられました。その際、面河の大成神宮や西条の特攻慰霊碑、関中佐のお墓などにご案内。亡くなられる半年前の昨年4月には、菅源三郎船長の銅像にまいりました。たまたまネット情報は持っておりましたものの、銅像付近には説明がなく、「これでは分からないねえ」と言われたことでした。この度、菊間瓦の屋根のついた立派な案内板が設置され、10月24日には除幕式が行われる由、ありがたいことです。(aoi)

神風特別攻撃隊戦没者慰霊追悼式典

日時：10月25日（日）

受付開始：午前9時 開式…10時30分

会場：西条市檜本神社 前広場 （小雨決行）

主催：神風特攻敷島隊五軍神 愛媛特攻戦没者奉賛会

月刊「日本」に掲載された折戸善彦さんのご文章の一部を紹介させていただきます。

「慰霊の心—終戦の日を迎えて—」

～関行男海軍中佐以下五軍神体当たり突撃～

折戸 善彦（退役海上自衛官）

特別攻撃隊は、大東亜戦争末期の昭和19年（1944）の10月25日以降に行われた戦法で、魚雷・爆弾を抱いたまま航空機もろとも敵艦隊に体当たりしたものである。特別攻撃隊最初の指揮官である関行男大尉は、愛媛県西条市生まれ、旧制西条中学を経て海軍兵学校出身で、この年5月に結婚したばかりであった。霞ヶ浦航空隊操縦教官を経て、ルソン島マバラカット基地に赴任した。折から同地は日米決戦の天王山と言われる激戦地で、戦局挽回の最後の望みを「一機一艦撃沈」の特別攻撃隊に賭けたのである。

10月19日、上官の指名に決意して攻撃隊を編成。各隊の呼称は江戸中期の国学者本居宣長の「敷島の 大和心を 人間わば 朝日に匂う 山桜花」から採用した敷島隊、大和隊、朝日隊、山桜隊で編成され、ここに初めて神風特別攻撃隊という名前が誕生した。最初に出撃した敷島隊は、隊長関中佐（戦死後2階級特進、24歳 数え年 以下同じ）、二番機中野磐雄少尉（20）、三番機谷暢夫少尉（21）、四番機永峰肇兵曹長（19）、五番機

大黒繁男兵曹長（21）の5人で構成され、^{かくかく}赫々たる戦果を挙げた。

関中佐の辞世の句

教え子は 散れ山桜 かくの如くに

戦後、西条市檜本神社宮司の石川梅蔵氏（元海軍兵学校教官）は、幼少から知っている関中佐の慰霊碑を建立しようと各方面に懸命に協力を求めたが、実現できなかった。ところが昭和49年（1974）5月7日、フィリピン人のカミカゼ記念協会会長ダニエル・H・デイゾン氏（フィリピン歴史会会員）によって、マバラカットの海軍航空基地跡に記念碑『第2次世界大戦に於いて日本神風特別攻撃隊が最初に飛び立った飛行場』が建立された。記念碑の除幕式には多くの参列者があったにも拘わらず、日本からの参加者は一人もいなかったという。

日本人が忘れていた神風特攻隊の偉業を、外国人が認め顕彰したのである。石川宮司はこれに驚嘆し、日本国民として恥ずかしい思いをしたという。かくしてその翌年3月には神社社頭に関中佐の慰霊碑が建立されたのである。以後毎年10月25日、檜本神社において関中佐以下五軍神を、後には併せて愛媛県出身の散華された特別攻撃隊93柱の慰霊祭が営まれ、現在に至っている。

平成13年9月11日、アメリカでイスラム過激派による「同時多発テロ」が発生した。この民間人をターゲットにした卑劣な「テロ」と「特別攻撃隊」を同列に扱うような論調があるが、大きな間違いである。米国は、東京をはじめとする都市大空襲・原子爆弾等で民家を襲撃目標にしたが、日本の「特攻隊」が民間人をターゲットにしたことは全くない。卑劣な「テロ」とは全く違う次元のことであり、これを同一視することは特攻隊員の崇高なる自己犠牲を侮辱することになり、日本の歴史を貶めることになるのである。なお、現在の慰霊祭は、当地の五軍神奉賛会が中心となって、陸海の自衛隊が協力する形で200名前後の参列があり、慰霊飛行・自衛隊音楽隊演奏・婦人部合奏等が奉納される。ただ、神社で催行されるのに、神官による祝詞奏上や参列者の玉串奉奠もなく、菊の献花であるのが真に残念である。